



NO.468

R8年8月1日

発行

〒869-1217

熊本県菊池郡

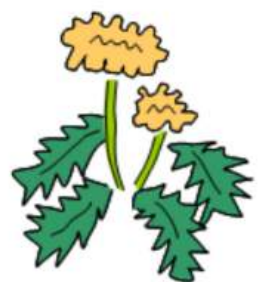
大津町森54-2

社会福祉法人

三気の会

三気の里

☎096-293-8100



後悔しないために

理事長 松田 健

便秘が続く方にはどうされていきますか。自分の子どもが排便なく苦しんでいるとしたら、もちろんすぐ病院に連れていきます。

病気でないことを聞き、ホッとすることでしよう。腹部のマッサージをします。仰向けに寝て膝を軽く曲げ体の力を抜きます。おへその周りを時計回りに手のひらで円を描くようにやさしく行います。自分の手も相手のお腹も温かくなっていきます。水分量を少し多くして、散歩などの運動も有効だと思います。それでも出ない時は、下剤を飲ませて下さい、それでもダメなら浣腸してください、と医師から言われると思います。マッサージをする時間はないかもしれませんが、しかし、手が触れることで熱はないのか、腫れているところはないかなどわかるかもしれません。触れ合うことで信頼関係が

築けると思います。何らかのアプローチは必要です。みんなが少しずつ知恵を出し合い、援助をおこなったら改善することもあるかと思っています。

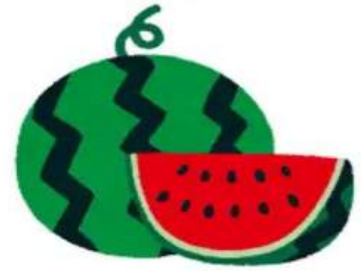
嚥下機能の能力が落ちた方にはどうされていますか。まず、医師や言語聴覚士に相談します。マッサージはプロの指導、助言の元に行ってください。勝手にしたことがあります。すみません。できることとして、柔らかい食事やとろみをつけた食事を提供します。とろみが少ないか等には注意を払います。食事の姿勢は重要だと思います。足台を準備して足が足元に届くようにしてもらっていました。一口量には特に気を使ってもらっています。少しという人と人それぞれなので小さいスプーンすりきり一杯とかみんなが共有できる基準で統一することが肝要です。飲み物でもむせることがあります。ゆっくり飲むことも大

事です。三気の里に来ていただいている歯科衛生士の前淵先生によると誤嚥性肺炎のリスクは口の中を清潔に保つことで減らせるということです。喉の筋肉を使うという意味で利用者さんと普通の会話をすることは大きなことだと思います。話しかければ「ちょっとまって」と言わずとそのままにすることは支援員なら一度は「ある、ある」話ではないでしょうか。過剰に声を出す人は話題になります。声を出さなくなった人は話題にならない場合があります。話もしなくなった、飲みこみも悪くなった。一連のことはセットで起こる場合があります。話しかけ、嚥下体操（4班さん、高橋、崎山スタッフに感謝します）をして、食事に付き添うことが必要だと思います。それでも誤嚥はあります。食べ物が引っ掛かった場面にはいたスタッフの中にとっても落ち込まれる方がいます。

私からすると「あなたがいてくれたので大きな事故にならず、命を救ってくれたのです。ありがとうございます。」という気持ちでいっぱいです。

施設の場合、スタッフ一人で多くの人数を見ています。まさに神業です。利用者の方が高齢になられることで、そのリスクは増しています。正直言って恐いです。無力ですが、昼食、夕食の時間は食堂へ行くようにしています。

昨年一名の利用者の方が癌で亡くなりました。6カ月弱病院で過ごされました。お見舞いに行き、何もできない私は足をさすりました。それしかできませんでした。4年前母親が亡くなる1週間前、コロナ禍、特別に部屋に入っていると聞いていた状態でした。酸素吸入をしている状態でした。声かけすると薄くですがうなずいて反応してくれました。目はつぶったままでした。足をさすりました。それしかできませんでした。短時間でしたが最期に会えてよかったと思いました。触れ合うことは後悔しないことにつながるとその時思いました。



「大冒険の1班レクリエーション」

1班のレクリエーションが、大雨の6月24日にありました。予定では阿蘇で赤牛丼を食べて、西原でアイスクリーム作りを行い、コンビニに寄っておやつとジュースを購入するという安定満腹コースです。しかし当日は大雨で、西原でのアイスクリーム作りを断念する事となり、カラオケチームとドライブチームに分かれて行動する事になりました。食べる事が大好きな利用者さんが、食べる事以外のカラオケに行って楽しむ事が出来るのか？結果は大正解でした。カラオケで歌を楽しそうに歌うYさん、歌を聴いて体を揺らしながらニコニコしているSさん、ジュースを堪能しているKさん、それぞれカラオケを堪能されたそうです。今回急遽カラオケに行くという行動は1班の利用者さんにもスタッフにも大きな進歩となりました。美味しい物を沢山食べて満腹になることも大事ですが、色々な体験を通じて生活の質を向上させることも大切だと感じました。

支援員 原田 直美

「至福の時間」

長かった梅雨も明け夏本番となりました。7月15日はレクリエーションでサントリー熊本工場へ出かけました。こだわりの製法の説明を聞きながらじっくり見学、ジュースラインの前で立ち止まり釘付けになっていました。最後にお待ちかねの試飲タイムでは、こだわりのビールにかわり5種類のソフトドリンクが用意されていました。喉も乾いていたので一気に飲み干してしまいます。その後、イオンモールへ移動しましたが、店内はとても混んでいました。人混み・照明・音は利用者みなさんが苦手とする場所でもあり、細心の注意をもって声かけを行います。事前にメニュー選択していた為、鎌倉パスタ・さぼてん・天丼の3グループに分かれ、いただきました。厨房から立ち込めるいい匂いに目を輝かせ至福の時間を過ごしました。

Tさん・Aさん、還暦おめでとうございます。スタート会でお祝いをしました。

♪生まれてきたこと 育ててもらえたこと 出会ったこと 笑ったこと そのすべてにありがとう
この命にありがとう♪

日常にあるささやかな幸せ、そして両親や大切な人への感謝が込められています。お二人の気持ちではないでしょうか

支援員 牛島真由美

「野菜作業」

3班の皆さんが、ワイワイしながら作業棟に入ってくるところから野菜作業の日課が始まります。長時間勤務になって3年目の私も、利用者さんの素晴らしい所を発見することができ、楽しく勤務をさせて頂いています。人参の袋詰めを早く丁寧に頑張っておられるTさん。以前は、袋詰めが少し苦手だったFさん、Kさん、Nさんも、丁寧に頑張られています。作業途中Kさんが「一緒にしましょうか？」と声をかけてくれて、手伝ってくれるので助かっています。Sさんに「一緒にしましょうか？」と声をかけると、隣に来て、少しお喋りをしながら楽しく作業を進めます。午前の作業が終了すると、作業棟にいる生活介護の利用者さんが、残りの作業を一生懸命されていて、その姿に感銘をうけます。沢山の野菜の袋詰めを、皆で車の荷台から出し、箱詰めした野菜を午後から車に乗せて、と毎日利用者さんと作業をするのが楽しくて、私はいつも幸せに思います。

支援員 岩下恵子

「仕分けのエース！」

暑い日が続く中、洗濯仕分けに励むのはTさんとGさんです。9時頃洗濯室に2人が姿を見せると自然と元気が出て「今日も頑張りましょう」と声をかけます。特にTさんは仕分け勤務が誰よりも長くベテランです。衣類の名前がを見つけにくい物も「これ〇さん！」と記名を見つけて、名前が分かりにくい靴下もテキパキ分けていきます。体調がすぐれない時、「休んで下さいね」と伝えても「Gさんが1人になるから頑張ります」とGさんの心配をされます。これからも無理しないで時々休みながら仕分けを続けてほしいです。いつもありがとうございます。TさんとGさんに感謝しています。

支援員 荒川百合子

「GO GO 三気」

6月、5班の数名の利用者さんとチャリティーボウリングに「GOGO三気」というチーム名を掲げ参加しました。今回私自身が利用者さんのボウリングをする姿を初めて見る機会が、ワクワクする気持ちでした。

イベント当日、チャリティーボウリングが始まりました！！

ボールの投げ方は利用者さん様々で、両膝を床につけボールを押すように投げる方、両手で思いっきり投げる方、片手で重いボールを必死に投げる方、色んな投げ方をされていました。ボールを投げた後もボールの行方やピンが倒れるところまでジューッと覗いている姿やボールを投げ終えた後、振り返った時の楽しそうな笑顔も見ることができました。スペアやストライクを何度か取られる方もおり、その度にみんなでハイタッチして一番盛り上がっていたチームだったと思います。

チャリティーボウリングの数日後、「ボウリング」という言葉を聞くと、ボウリングのフォームをされる方もいて、普段の日課の中では見られない姿や発見も多いなと改めて実感できました。

支援員 北岡 哲





「さつぱりさつぱり」

ままならないこと」

支援員 上野純一

私はグループホームはじめの夜間支援員として12年目になります。続けてきて夜間支援の良いところは考えると、利用者の皆さんに「おやすみなさい」

「おはようございます」と毎日言えることです。グループホームは住まいの提供が一番の目的

だと思いますが、お一人おひとりの住環境が何より大事です。グループホームには世話人とい

う仕事もあって、醍醐味は同じで暮らしを支えている気持ちにな

れることだと思います。宅老所よりあいの村瀬孝生さんと社

会学者の上野千鶴子さんの講演をYouTubeの動画でみてい

ましたら、加齢は中途障がいになることだと話がありました。

出来ていたことが、だんだん出来なくなる自分が誰にでも訪れ

ます。まだ皆さんはお若いです

が、利用者さまと共に加齢を受け入れ、歳を重ねていく豊かさを感じる暮らしを考えていきたいです。先を歩まれている親御さまにも加齢や老いのこと、是非お話を伺っていただけたらと思います。

支援課長便り

「想像力」

支援課長 岩田幸児

利用者さんの支援を考えていく中で、支援者の想像力はとても大切になってくると思っています。利用者さんが、どんな支援を求められているのか？利用者さんにとって必要な支援は何なのか？利用者さん自身が

必要な支援や求められている事柄を、ご自身の意思で表現されるのであれば、それに沿ってで

きる支援を提供できます。しかしながら、ご自身の意思を表現することが難しい利用者さんにとっては、その必要とされ

る支援について、支援者が想像を膨らませて考えていく必要が

あると思っています。想像を膨らませるためには、利用者さんが表現される行動や表情を観察すること、またご家族や関わってきた方々から情報を聞き取ることが大切になってきます。その情報を基に、支援を考え利用

者さんと関わっていく中で、利用者さんの反応や表情から、真に求められている支援は何なのかを常に考えアップデートし続ける想像力を持った支援者チームを目指していきたいと思っています。

夏祭り

「夏祭り」

主任支援員 小城 崇

7月17日(金)に今年も三気の夏の夏祭りを開催させて頂きました。数日前より利用者さんも楽しみにされていたようで、貼り出したポスターを見てゲームコーナーは何がある、景品は何だろうとスタッフに話しかけられていました。今年は例年同様、ゲームコーナーや花火コーナーだけ

でなく、昨年好評だったカラオケコーナーも同時に行いました。カラオケ好きな利用者さんは、十八番の曲で熱唱され楽しんでいました。また、盆踊りに関しては例年とは異なり、盆踊り自体をプロジェクターを通して大きな映像で映し出しました。踊りが苦手な方でも見て楽しむことができ、車椅子の方でも座位でもできる振り付けの映像を流すことで、視覚的にも利用者さんに分かりやすいようにと、今までとは視点を変えて行ってみました。

年々暑さが心配されますが、様々な配慮を行いながら、来年度も楽しみにして頂ける夏祭りができるようにスタッフ一同頑張っていきます。



療育雑記

看護に携わるようになって

主任 八木良江

昨年より、班に所属し看護業務も併用して行うようになりました。看護師の免許は持っていませんので、看護師のサポート？補助スタッフとして微力ではありますが看護面に関わっています。療育と看護の二刀流とまではいきません。

そこで障がい者施設での看護の役割とは？と調べたのですが、看護の役割は多岐にわたります。利用者の健康管理は勿論のこと、生活の質を向上させるためのサポートも重要な仕事として書いてありました。具体的な役割として書いてあったのが

- ①健康管理（バイタルチェック、服薬管理、健康観察、記録）
- ②医療的ケア（創傷処置）
- ③日常生活の支援（入浴、食事、排泄、移動などの介助、レクリエーション）
- ④その他の業務（記録、多職種連携、家族対応、研修）

とありました。多職種と連携しチームとして利用者をサポートすること、円滑なコミュニケーションを図ることも記載してありました。

私の看護業務は、この中の③と④が役割ではないかと思っています。（自分で勝手に決めていますが…）

看護に携わるようになって、改めて看護師の業務の多さと大変さを経験して、様々なことに気付きました。健康管理、医療的ケア、通院予定、医療に関する資料作り：等。まだまだ私が気付いていない業務も多々あると思います。その多くの業務の中で、私が出来る看護師のサポートは何だろうと考える中の一つで、利用者の健康診断（スタッフ、利用者）の業務を行っています。

障がい者支援施設では、施設入所支援を利用する利用者に対して、毎年2回以上の定期健康診断を行い、健康状態を適切に把握することが義務とされています。施設は利用者の健康状態を常に把握し、必要な措置を講じる責任があります。

三気の里では、年に2回の健康診断と、大津町で行われるがん複合健診を受けています。

今年度は、利用者の皆さんの平均年齢が50代後半になってきたので、検査項目も年齢に合わせたものを増やしました。私たちもそうですが、年齢にはかないません。色々あちこちと身体にも変化が出てきます。早期発見、早期治療ができるように願うばかりです。

健康診断を受けるにあたって、問診票の記入があります。本当であればご自身や家族での記入となるのですが、私たちが代弁者として既往歴を記入しています。既往歴を正確に記入することで、潜在的な健康リスクを早期に発見したり、不必要な検査を避けたりすることも目的です。入院歴や治療歴、現在服用している薬からの情報などを記入するとき、看護記録や過去の資料から情報をさがしていると、入所するときに保護者からの聞き取りで、幼少期の予防接種や幼少期から入所するまでの病気などの既往歴が手書きで記入されている資料を読みました。保護

者の方々、細かく記入されています。改めてその記録を読み直してみると、風邪をひきやすい、お腹の調子が悪くなりやすいなど、体調面のこと細かく書いてあり、一人ひとりの記録の文字から、これから親元を離れても健康に過ごしてほしいという願いが伝わってきます。

療育に携わって30年。新たに看護の業務が入り新鮮な気持ちでもあります。療育と看護の両面で、利用者さんがこれからの人生を心身共に健全で、元気に笑って年を重ねて、楽しく暮らせるように手助けができればと思います。



8月スケジュール

04(火) アンパ創作活動
06(木) ドーナツの日
08(土) 芸術の日
12(水) 話し合いの部屋
20(木) ゴールドクラブ
21(金) リハの日
22(土) イベント食

26(水) 音楽の日
強度行動障害支援者研修(実践)
29(土) 陣内食堂

毎週月曜日 訪問理容サービス
毎週水曜日 BeTREE役場販売
BeTREE
＜営業時間＞9:30～17:30



沢山のご厚意

ありがとうございます

ございます

【寄付】

松枝 英子様 田中 新一様
興呂 木克昭様

【寄付物品】

魚谷 秀文様 清田 栄一様
櫻木 勇夫様 中村 秀隆様
松村 俊介様 米田 孝一様
渡邊 正司様 田中 満子様
米村 秋江様 坂梨 清美様
井上 律子様 赤星 央子様
吉山 一男様 春野 宗敏様
田中 哲夫様 財津 睦夫様
金森 保様 宮本 きよみ様
井上 優様 井手 上昌子様
東坂 富士代様
井上 ちえ子様
上田 タキ子様

【後援会ありがとう】

中島 佐代様 松枝 英子様
松枝 由香様 園田 真也様
牛島 智子様 亀崎 憲様



編集後記

八月の代表的な和風月名は「葉月」です。なぜ葉月と呼ばれるようになったのか。いろいろと諸説ありますが、その中の一つの語源説に「葉落ち月」が変化したという説があります。

旧暦の八月は現在の九月頃です。九月でも暑い日が続く今では考えられませんが、昔は葉が落ち始める頃だったようです。

年々気温が上昇してきますが、それに身体がついていきません。地球の温度変化に人間が適応できるように変化していかなければならないのでは、とあってしまします。熱中症対策を万全に、利用者さんとの夏を乗り越えていきたいと思ひます。

吉田理江

